



第 1718 回例会

平成 24 年 9 月 10 日 (月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我等の生業」
 3. ゲスト紹介 米山奨学生 代向斐様
 和歌山ダルク代表 和高 優紀様
 4. 出席報告
 会員総数 55名 出席者数 38名
 出席率 69.09% 前回修正出席率 65.45%

5. 会長スピーチ



会長 花田 宗弘 君

今月は新世代月間です。新世代のプログラムに付き現状を報告させて頂きます。

- 1) 青少年交換 一昨年は海南高校の学生とブラジルの学生との交換を行いました。派遣された学生も一年間で随分成長し学力の遅れが心配されま

したが、無事大学に進むことが出来ました。

受け入れたブラジルからの学生も日本の文化を学ぶと共に我々に新風を吹き込んでくれました。今年度も募集が来ていますので、既に国際委員長の三木さんと一緒に、海南高校、智弁学院、大成高校に、谷脇さんにお願いして下津女子高に勧誘に出かけていますが今の所応募がありません。

- 2) 財団奨学生 3年前フィリピンからの奨学生を受け入れ、毎週英会話教室などを開催して国際交流を深めました。

残念ながら今年度は地区主導のこのプログラムはありません。

- 3) 米山奨学生 これは日本独自のプログラムで約60年前米山梅吉先生が米山基金を設立し、海外から日本に来て学ぶ学生の支援を始めたのがきっかけで、毎年約800人の学生を支援し延べ1万7千人に達しています。日本と海外との橋渡しに大いに貢献し成果をあげています。今日来ていただいている代さんもその一人で後ほど卓話をして頂きます。

4) ローターアクト (以下、中西幹事)

海南クラブと共同で提唱しているローターアクトクラブは、昨年まではリラ創造芸術高等専修学校関係の6名のメンバーが加わり活発な活動をしていたのですが、メンバーの移動もあり今年は活動が弱体化しているので、新しく海南地区的メンバーに入って頂いて活性化する予定です。

5) インターアクト

当クラブは未だインターラクトクラブに関係したことはありませんので、今年度は是非新しい結成に係わりたいと思っています。

6. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

粉河 R C 9月26日 (水) → 9月26日 (水)

18:30~ 休暇村 紀州加太

○認証状伝達式のご案内

大阪千代田ロータリークラブ

日時 平成24年9月30日 (日)

登録 17:30~ 式典 18:00~21:00

場所 スターゲイトホテル関西エアポート

会費 ¥10,000

7. 委員会報告

○国際奉仕委員会

委員長 三木 正博 君

国際奉仕委員会と米山記念奨学会委員会は共催で「中国語会話」勉強会を開催します。講師には米山記念奨学生の代向斐さんを招き、月に1回程度、初步の中国語会話を勉強します。姉妹クラブの彰化東南ロータリークラブとの交流をはじめ、ビジネスや観光旅行などで役立ちます。是非、この機会に皆と一緒に中華料理を食べながら、楽しく勉強してみませんか。多くのご参加をお願いします。

日 時 平成 24 年 9 月 19 日 (水) 19:00 から

場 所 海南省名高 534-1 海南駅前「香州園」

参 加 者 会員及びご家族の方 (定員 15 名程度)

会 費 一人 2,000 円

申込み 参加いただける方は、食事とテキストの準備もありますので、FAX で 9 月 14 日までにお申込み下さい。

9月は新世代のための月間です

四つのテスト 皆行はこれにかられてから

- ①実家かどうか ③好意と友情を深められるか
 ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花田 宗弘

幹事：中西 秀文

S A A : 那須 正志

8. ゲスト卓話

○米山奨学生

皆様、こんにちは。代向斐と申します。本日はご招待していただき本当にありがとうございます。ロータリークラブの皆様は、毎年留学生のために、ご支援をいただき本当にありがとうございます。本日はこの場をお借りして皆様に感謝の気持ちを表したいと思います。皆様、本当にありがとうございます。

日本に来てから三年が経とうとしていますが、その間に私は色々なことを学びました。しかし、まだ慣れないことや、びっくりさせられることがあります。初めて日本に来た時のこと、日本の大学に行って、風景は美しいと思いましたが、キャンパスの狭いのには大変驚きました。また、学生寮も少なく、学生達は毎日バイクや自転車などに乗って学校に通っているのにも驚きました。これに対して、中国のキャンパスはとても広く、学生達は全員が学生寮に入っています。寮は四人または6人が一つの部屋で生活をしています。ルームメートは一緒にご飯を食べたり、勉強をしたり、遊んだりするので、とても仲良くなりやすい環境の中にいます。私のルームメートは、楽しかったとき、悲しかったとき、何かに挑戦しようとしたときも、ずっとそばにいてくれました。たまには喧嘩することもあったけれども、笑顔に戻って、すべてを水に流すことができました。大学を卒業した今も彼女達とは美しい花のような友情でつながっており、私は彼女たちに会って、心が通じる友達ができたことを一番幸せだと思っています。これからも大切な友達ですから、いつでもどこでも変わらないと思っています。人生の中で、これは最大の財産です。

また、日本の学生と中国の学生を比べるとかなり違います。日本の学生の外見は、女子学生はもちろん、男子学生もおしゃれですが、中国の学生は地味な服装です。中国の大部分の学生は毎日しっかりと勉強して、夜も自習室で勉強しています。サボることは殆どありません。私達の学生時代を振り返ってみると勉強ばかりでした。しかし、中国の学生にひきかえ、日本の学生はさまざまな活動に参加できるし、アルバイトをすることもできます。もしも私が日本と中国の「どちらの学生の方がよいと思いますか」。と聞かれたら、私はきっと日本ほうを選びます。なぜなら、「勉強の虫」より、いろいろなことにチャレンジできる人生の方がよいと思うからです。

アルバイトのことをひとつ例にとっても、アルバイトをする学生はアルバイトをしない学生よりも社会のことがよくわかり、コミュニケーション能力も身につくため、将来のためのよい基礎を築けると思います。実際に体験を重ねることで、成長することができます。「どんなことには苦しいことまずだ」という中国のことわざのように今日の努力は明日のためなのです。

このほかにも文化や習慣の違いで慣れないことが

代 向斐 様



いろいろとありました。日本に来たばかりの頃のことです。私はごみを分類して捨てることが面倒で苦手でした。ごみの分別の種類や、毎週何曜日に何を捨てるのかということを覚えなければならぬからです。やっと覚えて、ごみを捨てることをうっかり忘れてしまうこともありました。それで、最初の頃、夜中に分類しないごみを捨てに行っていました。私だけではなく、他にも分類していない人がいました。ある日、学校に行くときのことです。会館の隣の人が、私達が捨てたごみを分類して整理してくれているところを目撃していました。その瞬間、私はとても恥ずかしくなりました。その日からは、ちゃんとルールを守ってごみを捨てています。

中国でもごみを分類して回収するルールがありますが、ちゃんと守る人は少ないのが現状です。どうして日本人はちゃんと守ることができるのでしょうか。きれいな町、きれいな庭を見て、どうしてこのようにきれいにできるのかという答えはすぐ頭の中に浮かびます。それは日本人が、環境のためにはどのような些細なことでもやるからです。そのような場面に出会ったとき、私は日本人の優しさを強く感じます。

もう一つ不思議なことがあります。日本人と動物の関係です。犬を連れて散歩する日本人をよく見かけます。公園や庭などの場所で犬と楽しそうに遊んだり、一緒に食べ物を食べたりしています。日本人とペットはまるで家族のようです。



このように日本と中国には、文化や習慣など、いろいろな違いがあります。しかし、よく似たことや同様なことも数多くあります。これから日本でさまざまな異文化についての勉強をして理解すると共に、できるだけ多くの文化交流をしたいと思います。今まででは、国や文化の違いに今まで戸惑うことが多かったのですが、今までの考えは過去のこととして、外国で学ぶことで新しい知識を身につける「明日」が大切だと思っています。

○和歌山ダルク代表

和高 優紀 様



何時もお世話になっています、薬物依存症者とその家族の回復支援施設の和歌山ダルクです。今年もお招き頂きまして心より感謝申し上げます。会員の皆様には活動資金の献金・必需品などの献品・施設のメンテナンス・レクリエーションのサポートなど、沢山のご支援を受けています。

お陰様で活動が充実し、スタッフの私達も新しい経験をさせて頂いています。本当に皆様には沢山のギフトを頂き、少しづつ成長させて頂いています。有難うございます。昨年、皆様とお会いして以来、変わった事と言えば、保護観察所から薬物依存回復訓練委託事業を受けて、更生保護施設にいる女性の方の治療の協

力を引き受けました。その他、ダルクで1年間の入寮治療が出来ない女性の依存症の方達に対して、カウンセリング(個別指導)もスタートし始めました。

和歌山刑務所で、授業を受けた事のある元受刑者の女性達のクライシスコールから、新たな試みを開始しました。女性の場合、子育て・親の介護など、自分の治療に時間を割けない人もいます。回復に最も有効な治療方法は、薬物を使っていましたが、それから離れて1年以上の入寮治療だと考えられてきました。しかし、諸事情を抱え、入寮治療が出来ない人も居ます。その様な人達の為に始めた、カウンセリングがどこまで回復の役に立つか、まだ、未知数ですが、何でもやってみようと思ってチャレンジを始めました。1対1で、ゆっくり時間をかけて治療をする事も、女性には必要だと感じています。

また、少年院に講師として出向いておりますが、個別指導・グループ指導・保護者面談を行っています。その中で、保護者の皆様のアフターケアも始めました。出院して再発する事が考えられますので、和歌山ダルクの家族会の案内をさせて頂き、家族が変わる事をお勧めしています。同じ悩みを抱えた家族の皆様との繋がりを持ってもらい、緊急時には助け合える様に参加を促しています。上記の三つの新たな試みは、全て皆様の声を聞き、必要に応じ、お答えした事業です。私達もこちらから苦しんでいる人達に歩み寄って行き、どんどん変わっていく事が必要だと感じます。

これからも、どうか和歌山ダルクを見守っていて下さい。本日は、一年を振り返っての活動報告と御礼でした。有難うございました。



花田会長から支援金を贈呈

9. 閉会点鐘

次回例会
休会 23年9月17日(月・祝)
第1719回例会 23年9月24日(月)
海南商工会議所 4F 12:30~
卓話 海草地方青少年育成推進員等連絡協議会
会長 辻敏弘様



ニコニコ・BOX

三木 正博君

皆さん、中国語会話の勉強会にご参加ください。

大江 久夫君

事務所の新築に際し、お祝いをいただき、有難うございました。

小椋 孝一君

紀美野町の敬老会に出席しました。
ゴルフで今期ベストスコア 81 で
まわりました。

深谷 政男君

昨日の釣り大会で総量の部の一位になりました。洲本沖のタチウオ釣りです。

委員会別懇談会 会報委員会、職業奉仕委員会、出席委員会、国際奉仕委員会、会員増強・退会防止・職業分類・選考委員会



国際ロータリー ニュース

モザンビークの子どもたちに 安全な水と衛生設備を

ロータリアンのホゼ・ルイ・アマラルさんは、モザンビークの首都マプトにある小学校のトイレに入ったとき、あまりの悪臭に1分もそこに立っていられませんでした。その小学校には、壊れかけた衛生設備

を修理する資金がありませんでした。当初、700名の生徒のために建てられた学校には、2,500名の生徒と職員が学校生活を送っていました。また、配管設備が老朽化しているため、通常のトイレではなく、簡易トイレが男女1つずつ設置されているだけでした。さらに問題はトイレだけでなく、水道設備は校庭に蛇口が2つあるのみで、利用時間も一日2時間に限られていたのです。そこで、マプト・ロータリークラブのロータリアンは、水プロジェクトを計画するために教育省を訪れ、水と衛生の問題がある学校のリストを入手、その後、リストにある学校を訪問してプロジェクトのニーズを特定しました。「水を利用できない学校の状況は、実にひどいものでした」と、アマラルさんは振り返ります。

ロータリアンはその後、衛生設備の改善と貯水タンクの設置にかかる費用の見積もりを用意し、55,100米ドルのプロジェクトのための国際パートナーを探しました。すると、デンマークのスカナボーコ・ロータリークラブが、援助国パートナーとして協力してくれることになりました。「クラブ資金を活用できる財團



マフト・ロータリー・クラブ(モザンビーク)とスカナボー・ロータリー・クラブ(デンマーク)の協力による、グローバル補助金を利用した給水／衛生設備設置プロジェクト。

「プロジェクトを探していました」と、会員のスタン・シェルエンバッカさんは話します。このクラブは、ロータリー財団の新しい補助金モデルを試験的に利用している地区的クラブで、ほかの試験地区的クラブとの協力を模索していました。

二つのクラブは、ロータリー財団のグローバル補助金を申請、受領し、プロジェクトを実行しました。トイレの設置、井戸掘り、5,000リットルの貯水タンク設置を経て、2011年10月、新たに設置された水／衛生設備を記念する式典が行われました。式典に出席した市の教育相は、通常の設備を上回る出来栄えに賞賛の言葉を述べました。

プロジェクト後は、学校当局が施設の管理を担当しています。また、業者による定期的なメンテナンスが行われるよう、ロータリアンが段取りを立てました。「子どもたちは、とても喜んでいます」とアマレルさん。先週、スポーツ用品をプレゼントしようと久しぶりに学校を訪れたところ、子どもたちが駆け寄ってきて挨拶してくれたそうです。「水をくれた人だ、ってみんな覚えていてくれました」

2013年国際大会開催地、 リスボンの周辺の見どころ

2013年6月23～26日のRI国際大会でポルトガルのリスボンを訪れる際は、そこから西に約30キロ足を伸ばせば、壮大な大西洋が見渡せる高台やビーチでのんびり楽しむことができます。かつてはヨーロッパ王室の行楽地として知られたカジノで、ジェームズ・ボンドの気分を味わうことができます。

中でも、エストリルとカスカイスは、リスボンからの日帰り旅行が可能で、お勧めの地域です。カスカイスには、陽のあふれるビーチと素敵なレストランがあり、徒歩で20分のところにはボカ・ド・インフェルノ（地獄の口）と呼ばれる海岸沿いの岩場があります。カスカイスから3キロほど離れた静かなリゾート地、エストリルは、ヨーロッパ最大のカジノで有名です。

カスカイスの約16キロ先には、ヨーロッパ大陸の最西端、ロカ岬があります。大西洋の夕焼けを背景にしたロカ岬の灯台は、まさに美しい絵画のようです。また、海外沿いには、シントラ・ロータリークラブによって1980年に建てられたロータリー75周年記念の石碑を見ることができます。リスボンの南、約281キロの場所にあるアレンテージョ地方は、欧洲人が休暇を過ごす地として有名です。大西洋が一望でき、美しい砂浜、ゴルフ、ウインドサーフィンなどを楽しむいただけます。15世紀にエンリケ航海王子が探検の拠点としたラゴスなど、アレンテージョ地方には大航海時代の面影を残す多くの町があります。



2013年RI国際大会開催地、リスボン周辺では、数々の絶景が目を楽しませてくれます

米国クラブが識字プロジェクト賞を受賞

9月7日、ワシントンD.Cで行われる国際識字デーのイベントにおいて、地域社会の読書関係団体との卓越した協力を表彰する「国際ロータリー、国際読書協会、ピアソン財団識字プロジェクト賞」（賞金2,500ドル）が、米国の二つのRC（ミシガン州のロックフォードRC、オレゴン州のセーラムRC）に授与されました。

今回受賞した2つのプロジェクトは、地域社会が参加することの重要性を認識させるもので、高レベルの識字の推進を目指す国際読書協会（IRA）は、専門家が会員となって、読書指導の質の向上、読書に関する研究や情報の普及、生涯読書の大切さへの認識向上などに取り組んでいます。国際読書協会には、100カ国に7万人の会員、30万人の準会員がおり、その中には、地域社会、都道府県、地域、国家レベルの読書関係の協議会なども含まれます。2002年以来、ロータリーと国際読書協会は、世界中の地域社会における識字率向上のため、奉仕のパートナーとして協力してきました。ロータリークラブと地区は、識字率向上プロジェクトを立ち上げるために、国際読書協会と協力し、相談するよう奨励されています。

今回受賞したプロジェクトの一つは、ロックフォードRCによる「読書は最高」という読書フェスティバルです。同クラブは毎年8月に、国際読書協会の地元協議会、学区、図書館などと協力し、識字の大切さを推進することを目的とした余興やパレード、家族参加型の行事を開催しています。ロックフォードRCの元会長であるニール・ブレークスリーさんは「地域全体が、読書を基本的能力とみなし、読書によって人生がさらに豊かになると理解している。受賞によって、活動にさらに拍車がかかると期待しています」

セーラムRCは、グアテマラの子どもたちのために実施した本作りのプロジェクトが評価され、今回の受賞となりました。地元の読書団体と協力し、ウイリアムM.ボトナン学校に通う小学生130人に、マヤ語で書かれた本を寄贈し、公立の学校では教えられていない原住民の言葉を通じた文化保護を目的とした活動を実施しました。「クラブの青少年識字委員会が、地元や海外の子どもたちのためのプロジェクトを考案しています」「今回のプロジェクトでグアテマラの地元社会とつながりを持ち、文化保護を支援できることを誇りに思います。また、今回の受賞によってプロジェクトへの注目が高まり、識字のニーズに光が当たることを願っています」

世界のロータリーとつながろう！



世界各地の話題は、ロータリーのブログ「Rotary Voices」をご覧ください。